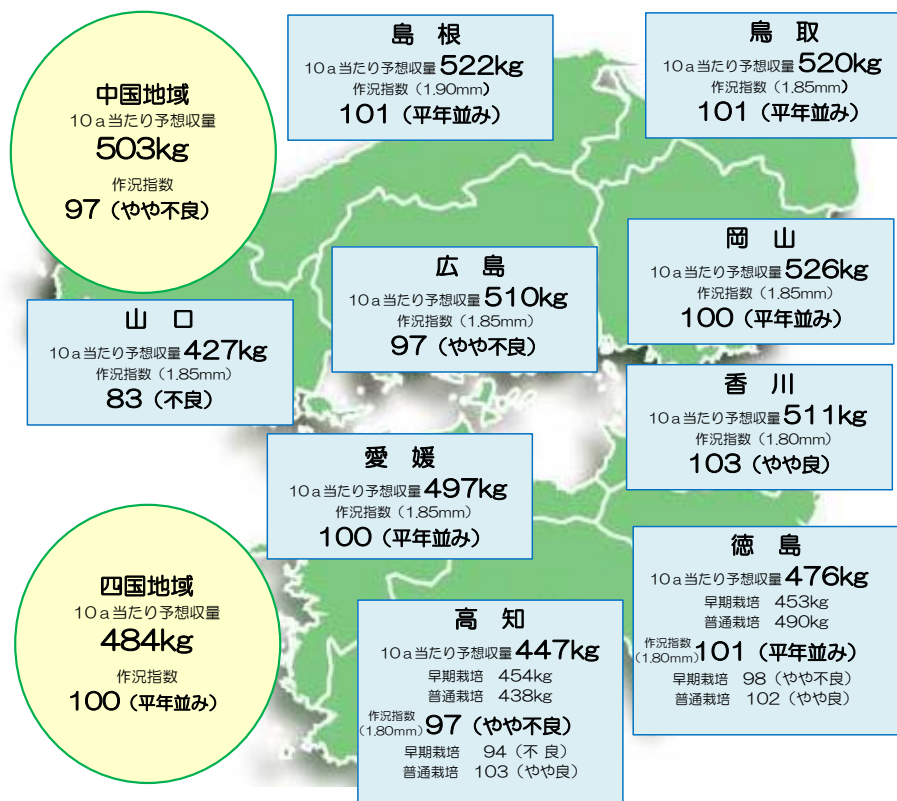


令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (中国地域・四国地域)

【調査結果の概要】

- 1 令和2年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は、中国地域が10万6,900ha、四国地域が4万9,900haで、うち主食用作付見込面積は中国地域が9万8,200ha、四国地域は4万6,900haが見込まれます。
- 2 9月15日現在における10a当たり予想収量は、中国地域が503kg(前年産並み)、四国地域は484kg(前年産に比べ27kg増加)が見込まれます。
 また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は、中国地域が97(やや不良)、四国地域は100(平年並み)が見込まれます。
- 3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は、中国地域が49万4,500t、四国地域は22万6,400tが見込まれます。

図 地域別・県別10a当たり予想収量及び作況指数(9月15日現在)



本資料は、中国四国農政局ホームページ「統計情報」の次のURLからご覧いただけます。
 【 <https://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html> 】

◎ 用語の解説及び特記事項

- ・ 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがあります。
- ・ 本資料における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当します。
- ・ 早期栽培とは、8月中旬頃までに刈り取りがおおむね終了する栽培方法で、その面積がおおむね3割以上を占める県では早期栽培として別に集計しています。管内では徳島県及び高知県が該当します。
- ・ 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースでおおむね8割以上を占める県で、管内では鳥取県と島根県が該当します。
- ・ 遅場地帯とは、早場地帯以外の県です。

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

中国地域・四国地域における水稲の年次別推移

区分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	参考		
	子実用	ha			ha	ha	t
中国地域 平成22年産	119,300	117,500	501	588,800	116,600	583,300	97
23	118,600	115,100	522	600,400	113,200	590,500	101
24	118,200	114,700	524	601,400	113,000	592,100	101
25	118,000	115,200	510	587,600	112,900	575,600	99
26	116,300	112,600	495	556,900	108,700	536,600	96
27	114,500	108,100	503	543,900	104,100	523,400	97
28	113,200	106,000	526	557,300	102,200	537,900	102
29	111,700	104,300	530	552,400	101,200	536,100	103
30	110,200	103,700	519	537,800	101,100	524,200	101
令和元年産	108,000	102,100	503	513,200	99,400	499,800	97
2年産 (見込み)	106,900	..	503	..	98,200	494,500	97
四国地域 平成22年産	58,400	57,700	481	277,300	57,600	277,300	100
23	57,500	56,200	478	268,600	55,900	267,100	99
24	57,200	55,800	482	269,000	55,500	267,100	100
25	57,200	56,400	484	273,000	55,700	269,500	100
26	56,500	55,300	463	256,200	54,500	253,000	96
27	55,200	52,100	466	242,800	51,700	241,000	96
28	54,100	50,900	492	250,500	50,500	248,700	102
29	52,900	49,900	486	242,400	49,500	241,000	101
30	51,900	49,300	473	233,400	49,000	232,000	98
令和元年産	50,800	48,300	457	220,700	47,800	218,500	94
2年産 (見込み)	49,900	..	484	..	46,900	226,400	100

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積です。
- 2 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。
- 3 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積（見込み）です（以下同じ。）。
- 4 作況指数は、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出しています。令和2年産以降の作況指数は、各県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
- 5 「..」は、未発表であることを示しています。

【調査結果】

1 作付面積

令和2年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は、中国地域が10万6,900ha（前年産に比べ1,100ha（1.0%）減少）、四国地域は4万9,900ha（同900ha（1.8%）減少）が見込まれます。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、中国地域が9万8,200ha（前年産に比べ1,200ha（1.2%）減少）、四国地域は4万6,900ha（同900ha（1.9%）減少）が見込まれます。

2 作柄概況

田植期以降一時的に低温の時期があったものの、天候に恵まれ初期生育は順調となりました。梅雨入り後の6月中旬や7月は低温・日照不足となったものの、梅雨明け後の8月から9月中旬までは高温・多照となりました。

全もみ数は、早期栽培（徳島県、高知県）で「やや少ない」ないし「やや多い」となりました。早場地帯（鳥取県、島根県）では、「平年並み」ないし「やや多い」となり、遅場地帯（岡山県、広島県、山口県、徳島県（普通栽培）、香川県、愛媛県、高知県（普通栽培））では、「平年並み」から「やや多い」となっています。

登熟は、8月から9月中旬にかけての高温の影響やトビイロウンカ等の被害により「やや不良」ないし「平年並み」と見込まれます。ただし、徳島県の早期栽培や香川県では、全もみ数が「やや少ない」ないし「平年並み」となったことによる補償作用及び日照時間が確保されたことにより「やや良」が見込まれます。一方、山口県はトビイロウンカの被害の発生等により「不良」が見込まれます。

この結果、10a当たり予想収量は中国地域が503kg（前年産並み）、四国地域は484kg（前年産と比べ27kg増加）が見込まれます。

また、農家等が使用しているふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は、中国地域が97（やや不良）、四国地域は100（平年並み）が見込まれます。

3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、中国地域では49万4,500t（前年産に比べ5,300t（1.1%）減少）、四国地域では22万6,400t（同7,900t（3.6%）増加）が見込まれます。

【統計表】

1 令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a 当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			参 考	
	実数	前年産との比較			10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 (主食用) ⑥=⑤×①
		対差	対比						
	ha	ha	%	kg	kg	kg	ha	t	
中国地域	106,900	△ 1,100	99	503	479	495	97	98,200	494,500
鳥 取	13,700	△ 100	99	520	501	495	101	12,800	66,600
東 部	5,220	△ 10	100	515	496	493	101	…	…
西 部	8,490	△ 70	99	521	502	497	101	…	…
島 根	18,400	△ 200	99	522	488	483	101	16,800	87,700
出 雲	13,100	△ 100	99	530	494	487	101	…	…
石 見	5,340	△ 110	98	503	472	473	100	…	…
岡 山	31,200	△ 300	99	526	501	501	100	28,900	152,000
南 部	19,600	△ 100	99	532	502	505	99	…	…
中 北 部	11,600	△ 200	98	515	496	494	100	…	…
広 島	23,400	△ 200	99	510	492	508	97	22,000	112,200
南 部	9,100	△ 240	97	512	489	503	97	…	…
北 部	14,300	0	100	509	495	511	97	…	…
山 口	20,100	△ 400	98	427	401	481	83	17,800	76,000
東 部	3,830	△ 100	97	411	392	460	85	…	…
西 部	12,600	△ 200	98	430	399	487	82	…	…
長 北	3,680	△ 70	98	446	428	485	88	…	…
四国地域	49,900	△ 900	98	484	466	465	100	46,900	226,400
徳 島	11,700	△ 300	98	476	465	462	101	10,700	50,900
早期栽培	4,680	△ 50	99	453	443	453	98	…	…
普通栽培	7,050	△ 200	97	490	478	467	102	…	…
北 部	8,290	△ 160	98	489	477	466	102	…	…
南 部	3,450	△ 80	98	443	434	451	96	…	…
香 川	11,900	△ 400	97	511	492	478	103	11,600	59,300
愛 媛	13,800	△ 200	99	497	469	469	100	13,300	66,100
東 予	5,370	△ 120	98	494	459	456	101	…	…
中 予	4,170	△ 10	100	535	503	501	100	…	…
南 予	4,260	△ 60	99	464	445	454	98	…	…
高 知	12,400	△ 100	99	447	435	447	97	11,200	50,100
早期栽培	7,180	△ 60	99	454	442	472	94	…	…
普通栽培	5,250	△ 40	99	438	427	415	103	…	…
中 東 部	7,050	△ 60	99	457	444	468	95	…	…
西 部	5,380	△ 40	99	432	422	416	101	…	…

- 注：1 ①10a 当たり予想収量は、1.70 mm のふるい目幅で選別された玄米の重量です。
2 ②10a 当たり予想収量、③10a 当たり平年収量及び④作況指数については、各県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。（P. 9 6 用語の解説(8)参照）
3 主食用作付見込面積は各県の作柄表示地帯別や徳島県及び高知県の早期・普通期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示しています。
4 各地域ごとの作付面積及び収穫量については県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合があります。（P. 10 8 利用上の注意(1)参照）
5 「△」は、減少を示します。
6 注意書きは、以下の表において同じです。

2 令和2年産水稻の作柄概況（9月15日現在）

区 分	作柄概況（平年比較）			
	穂数の多少	1穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の 多 少	登熟の良否
鳥 取	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
東 部	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良
西 部	平年並み	やや少ない	平年並み	やや良
島 根	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
出 雲	やや少ない	やや多い	やや多い	やや不良
石 見	平年並み	やや多い	やや多い	不良
岡 山	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
南 部	少ない	やや多い	平年並み	やや良
中 北 部	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良
広 島	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良
南 部	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良
北 部	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良
山 口	やや少ない	やや多い	平年並み	不良
東 部	平年並み	平年並み	平年並み	不良
西 部	やや少ない	やや多い	やや少ない	不良
長 北	平年並み	やや多い	やや多い	不良
徳 島（早期栽培）	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
北 部	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
南 部	やや少ない	やや少ない	少ない	やや良
（普通栽培）	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
北 部	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
南 部	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
香 川	少ない	多い	平年並み	やや良
愛 媛	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
東 予	やや少ない	やや多い	やや多い	やや不良
中 予	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
南 予	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良
高 知（早期栽培）	やや少ない	やや多い	やや多い	不良
中 東 部	平年並み	やや多い	やや多い	不良
西 部	少ない	多い	平年並み	やや不良
（普通栽培）	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
中 東 部	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
西 部	やや多い	やや多い	多い	やや不良

3 令和2年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

区 分	出 穂 期					刈取済面積 割 合	
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較			
				対平年差	対前年差		
		月 日	月 日	月 日			%
鳥 取		7.29	8. 9	8.25	3日遅	1日遅	17
東 部		7.29	8. 8	8.21	4日遅	1日遅	22
西 部		7.29	8. 9	8.26	3日遅	1日遅	14
島 根		7.21	8. 3	8.23	4日遅	2日遅	49
出 雲		7.21	8. 4	8.24	4日遅	2日遅	44
石 見		7.20	7.31	8.18	4日遅	2日遅	60
岡 山		7.31	8.21	9. 5	1日遅	並み	22
南 部		8. 5	8.31	9. 9	並み	1日早	9
中 北 部		7.23	8. 3	8.26	2日遅	1日遅	44
広 島		7.24	8. 9	8.26	2日遅	1日遅	37
南 部		7.25	8.18	8.29	1日遅	2日遅	27
北 部		7.23	8. 2	8.23	2日遅	並み	44
山 口		7.30	8.12	8.27	3日遅	3日遅	45
東 部		7.31	8.16	8.26	1日遅	2日遅	47
西 部		7.30	8.12	8.28	4日遅	3日遅	42
長 北		7.28	8. 3	8.24	1日遅	2日遅	56
徳 島（早期栽培）		7. 6	7.13	7.27	1日早	3日早	100
北 部		7. 8	7.16	7.29	1日早	3日早	100
南 部		7. 4	7.12	7.25	1日早	3日早	100
（普通栽培）		7.18	7.31	8.28	並み	並み	71
北 部		7.18	7.31	8.29	並み	並み	71
南 部		7.19	8. 1	8.22	並み	並み	78
香 川		7.20	8.20	8.30	1日早	2日早	40
愛 媛		7.17	8.13	9. 3	並み	1日早	44
東 予		7.17	8.25	9. 9	並み	1日早	24
中 予		7.22	8.10	9. 1	1日遅	並み	47
南 予		7.10	8. 1	8.28	並み	2日早	66
高 知（早期栽培）		6.23	7. 2	7.19	並み	1日早	100
中 東 部		6.22	7. 1	7.18	並み	1日早	100
西 部		6.24	7. 4	7.20	1日遅	1日早	100
（普通栽培）		8.10	8.17	8.30	1日早	1日早	5
中 東 部		8.10	8.17	8.30	1日早	1日早	5
西 部		8.10	8.17	8.30	1日早	1日早	5

注： 出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び作柄概況調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

本調査は、全国の各都道府県を対象に実施しています。

(2) 調査対象の選定

ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された全ての耕地

イ 作柄概況調査

水稻が栽培されている耕地

(3) 調査対象数

ア 作付面積調査

標本単位区：5,573 単位区 巡回・見積り：202 市町村

イ 作柄概況調査

作況標本筆調査：1,595 筆 作況基準筆調査：33 筆 巡回・見積り：202 市町村

区分	作付面積調査	作柄概況調査		作付面積調査 及び 作柄概況調査
		標本単位区	作況標本筆	作況基準筆
	単位区	筆	筆	市町村
鳥取	404	150	3	19
島根	502	195	6	19
岡山	892	240	4	27
広島	707	220	2	23
山口	713	180	4	19
徳島	507	150	5	24
香川	355	150	2	17
愛媛	776	150	5	20
高知	717	160	2	34

3 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況等

4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和2年7月15日現在

(2) 作柄概況調査：令和2年9月15日現在

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

ア 母集団の編成

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区（区画内に存する耕地の筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）について、面積調査用の地理情報システムにより、地目（田又は畑）等の情報が登録されている。）の集まりを母集団（全国約290万単位区）としています。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報に補正することにより整備しています。

イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、そのそれぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類しています。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の水稻作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに調査対象数を配分し、系統抽出法により抽出します。

エ 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稻が作付けされている全ての筆について、1筆ごとに作付けの状況及びその範囲を確認します。

オ 推定

面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況水稻作付見積り面積の合計」の比率を「母集団

(全単位区)田台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率(田台帳面積に対する実面積の比率)を乘じることにより、全体の面積を推定しています。

カ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握しています。

(2) 作柄概況調査

ア 母集団

(1)のイにより、「田のみ階層」及び「田畑混在階層」の地目階層に分類される単位区を母集団としています。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力(地形、気象、栽培品種等)により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っています。

ウ 標本配分及び抽出

道府県別の標本数を階層別に水稻の作付面積に10 a 当たり収量の母標準偏差を乗じた積に比例して配分します。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積(田台帳面積)に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出します。抽出された標本単位区内で、水稻が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆(実測調査を行う筆)とします。

エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行います。

オ 10 a 当たり玄米重の算定

(ア) 作柄概況調査(調査期日において収穫期を迎えていないもの)

刈取りが行われる前に調査を実施するため、穂数、1穂当たりもみ数及び千もみ当たり収量のうち実測可能な項目については実測値、実測が不可能な項目については過去の気象データ、実測データを基に作成した予測式により算定した推定値を用いることとし、これらの数値の積により10 a 当たり玄米重を予測します。

(イ) 収穫量調査(調査期日において収穫期を迎えているもの)

各作況標本筆について、一定株数(1 m²分×3か所の株数)の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米(農産物規格規程(平成13年2月28日農林水産省告示第244号)に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの)となるように選別し、10 a 当たり玄米重を決定します。

カ 10 a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10 a 当たり玄米重の平均を基に、都道府県別の10 a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率(コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス)や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10 a 当たり収量を推定します。

さらに、作況基準筆(10 a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。)の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完します。

キ 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10 a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求めます。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握します。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握します。

6 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稲、わら専用稲等を含む。)のほか、飼料用米等を指します。
- (2) 「穂数の多少」とは、1 m²当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1 m²当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素(1 m²当たり穂数等)の平年値との比較です。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

- (7) 「補償作用（相反作用）」とは、水稻では一つの収量構成要素が減少（増加）すると、それを補うために他の要素が増加（減少）し、全体のバランスを取ろうとすることをいいます。
- (8) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する 10a 当たり予想収量の比率です。
 なお、平成 26 年産以前の作況指数は 1.70mm のふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成 27 年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去 5 か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて 9 割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していました。令和 2 年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去 5 か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

令和 2 年産の作況指数の算出に用いるふるい目幅	
県名	農家等使用目幅
鳥 取	1.85mm
島 根	1.90mm
岡 山	1.85mm
広 島	1.85mm
山 口	1.85mm
徳 島	1.80mm
香 川	1.80mm
愛 媛	1.85mm
高 知	1.80mm

- (9) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される 10a 当たり収量をいいます。

7 各県の作柄表示地帯

中国四国管内の各県の作柄表示地帯は次表のとおりです。

県名	作柄表示地帯	該当市町村
鳥取	東 部	鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町
	西 部	米子市、倉吉市、境港市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町
島根	出 雲	松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町
	石 見	浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町
岡山	南 部	岡山市、倉敷市、玉野市、笠岡市、井原市、総社市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、浅口市、和気町、早島町、里庄町、矢掛町、吉備中央町
	中 北 部	津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町
広島	南 部	広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、大竹市、東広島市、廿日市市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、大崎上島町
	北 部	府中市、三次市、庄原市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、世羅町、神石高原町
山口	東 部	下松市、岩国市、光市、柳井市、周南市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町
	西 部	下関市、宇部市、山口市、防府市、美祢市、山陽小野田市
	長 北	萩市、長門市、阿武町
徳島	北 部	徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町
	南 部	阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町
香川	香 川	高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市、さぬき市、東かがわ市、三豊市、土庄町、小豆島町、三木町、直島町、宇多津町、綾川町、琴平町、多度津町、まんのう町
愛媛	東 予	今治市、新居浜市、西条市、四国中央市、上島町
	中 予	松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町
	南 予	宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町
高知	中 東 部	高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、香南市、香美市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村
	西 部	須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町

8 利用上の注意

(1) 統計数値は、下記の方法で四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

原数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)		3桁	2桁		1桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前 (原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後 (統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- (2) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(中国地域・四国地域)」(中国四国農政局)による旨を記載してください。
- (3) この資料のうち作付面積の数値は、概数値です。
 確定した詳細な数値は、ホームページに掲載(令和3年2月予定)するとともに、その後刊行する「令和2年耕地及び作付面積統計」に掲載します。
- (4) 本調査における作柄概況(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象等により作柄は変動することがあります。

【ホームページ掲載案内】

○各種農林水産統計調査結果は、中国四国農政局ホームページの「統計情報」でご覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html> 】



お問合せ先

◎本統計調査結果について

《中国四国農政局全体》 中国四国農政局 統計部 生産流通消費統計課

電話：086-224-4511(代表) 内線 2744 (武市)、2741 (松田)、2740 (守屋)
 時間外直通電話：086-222-4450 FAX：086-234-6047

《岡山県》	統計部 統計調査チーム	電話：086-899-8618
《鳥取県》	鳥取県拠点 統計チーム	電話：0857-22-3201
《島根県》	島根県拠点 統計チーム	電話：0852-26-7700
《広島県》	広島県拠点 統計チーム	電話：082-228-5847
《山口県》	山口県拠点 統計チーム	電話：083-922-5473
《徳島県》	徳島県拠点 統計チーム	電話：088-625-6990
《香川県》	香川県拠点 統計チーム	電話：087-883-6501
《愛媛県》	愛媛県拠点 統計チーム	電話：089-932-1178
《高知県》	高知県拠点 統計チーム	電話：088-824-7900

◎農林水産統計全般について

中国四国農政局 統計部 統計企画課

電話：086-224-4511(代表) 内線 2726 または 2721